

入学式

松商学園高校は4日、本年度の入学式を挙行了。13クラス、537人が入学。新入生は、百瀬康雄新校長、PTAや校友会役員、来賓の話しを傾け、これから始まる高校生活に期待を膨らませた。入学式の様子と合わせ、新校長へのインタビューなどを掲載する。



百瀬校長に宣誓書を手渡す宇津木君

自主独立への第一歩

入学式は、新入生、保護者、来賓ら約1000人が出席して行った。厳粛な雰囲気の中、新入生は吹奏楽部の軽やかなマーチの演奏に迎えられ、幾分緊張した面持ちで入場。新入

生代表の宇津木孝一君は、1日からの消費税の増税に触れ、「変化」に「自主独立」に触れ、「一人の人間として独立」に「主体的に高校生活」を過ごし、「自主独立の第一歩を踏み出してほしい」と激励。

校生活を本格的にスタートさせた。



新入生に担任を紹介

百瀬康雄新校長インタビュー



【ももせ・やすお】1952(昭和27)年松本市生まれ。松本深志高校、京都大学理学部卒業。塩尻志学館、豊科、松本深志高校などで校長を務めた。定年後、松本蟻ヶ崎高校非常勤講師。4月1日、松商学園高校校長に就任した。

―着任にあたり、松商学園の印象は
実家が松商学園に近く、幼いころから親しんだ場所。伝統があり、校舎も素晴らしい。生徒にとってもいい環境だと思つた。昔からクラブ活動が強く、県内のスポーツを引っ張ってきた高校という印象がある。

―県立高校校長を退任してから
松本深志高校の校長を定年で終えてから、以前から親交のあった前任の金井貞徳校長の思いは、松商学園は卒業生がたいへん多く、多くの人に期待されている学校。その期待に応え、地域に信頼される学校



入学式を終え、初のホームルームに向かう新入生

―1976(85年)の小原元亨さんの言葉を用い。「独り善がりではなく、助け合いの精神を尊重し、上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生を慕い、松商学園という一つ屋根の下、意欲的にチャレンジしてほしい」と期待した。

また新入生は7日、歓迎会やオリエンテーションなどに臨み、高

弓道部
好成績

弓道部は3月に行われた大きな大会で、男女とも好成績を残した。女子は第13回東日本高校大会(22-24日、秋田市)で準優勝、男子は第4回全国私立高校大会(29-30日、大阪市)で3位になった。

顧問の森政秀教諭は大会後、弓道用語の「正射必中」(正しく放てば必ず当たるという意味)を挙げ、これが実践できたことを、好成績の一因と振り返った。

特に男子は予選を13位で通過。厳しい展開が予想されたが、「正射必中」という師範の教えを守り、全国の強豪を相手に3位に食い込んだ。

森教諭は「大会を通じて成長を感じた選手もいた。インターハイに向け準備していきたい」と話した。



活躍した弓道部